

# TCFDフレームワークに基づいた情報開示

気候変動が社会に与える影響は大きく、ホシザキグループとしても取り組むべき重要な社会課題だと捉えています。当グループは2022年2月にTCFD提言への賛同を表明し、TCFDフレームワークに基づき情報開示を進めています。2023年は、シナリオ分析の見直しのほか、事業活動からのCO<sub>2</sub>排出量(スコープ1&2)算出対象範囲を単体からグループ\*へ広げました。

さらに、削減目標もグループ\*とし、2030年の中間目標としてCO<sub>2</sub>排出量(スコープ1&2)の30%削減(2023年比)に設定しました。脱炭素社会の実現に向け、引き続きグループを挙げて取り組みを推進していきます。

\*海外販売会社は除く

## ガバナンス

ホシザキグループは、気候変動への対応を含むマテリアリティへの取り組みを推進する体制として代表取締役社長を委員長とするサステナビリティ委員会を設置しています。その傘下で気候変動対策を推進する気候変動ワーキンググループ(WG)が活動しています。WGの活動実績はサステナビリティ委員会で定期的に進捗が検証されます。

▶詳細はp.51

## 戦略

### 気候変動に対するシナリオ分析

2023年に「2℃以下シナリオ」を2℃から、より社会要請に沿った1.5℃へ見直しました。財務影響度はリスク・機会の期間収益への影響度と発生可能性によりそれぞれ3段階で評価しています。

\*シナリオ分析の詳細は次頁参照

参照シナリオ  
World Bank "State and Trends of Carbon Pricing 2021"  
IEA World Energy Outlook (WEO) 2021  
IPCC AR5-RCP2.6 (2℃未満シナリオ) RCP8.5 (4℃シナリオ)

## リスク管理

気候変動に関する企画・立案、管理については、サステナビリティ委員会がこれをおこない、全社的な気候変動への対応を推進しています。具体的には、気候変動に関する自社への影響(リスクと機会)を評価・識別し、対応策を立案・実施しています。

## 指標と目標

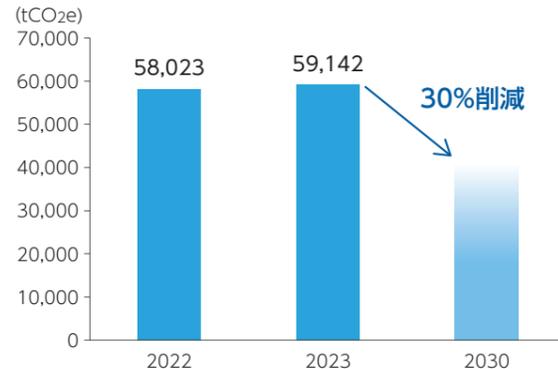
ホシザキグループは、2050年に事業活動からのCO<sub>2</sub>排出量(スコープ1&2)実質ゼロへ向け、徹底した省エネ活動や再生可能エネルギーの積極的な利活用を推進していきます。2030年の削減中間目標はホシザキグループ(海外含む)で、2023年比30%削減としています。

### ホシザキグループ:CO<sub>2</sub>排出量(スコープ1&2)

#### 削減中間(2030年)目標値

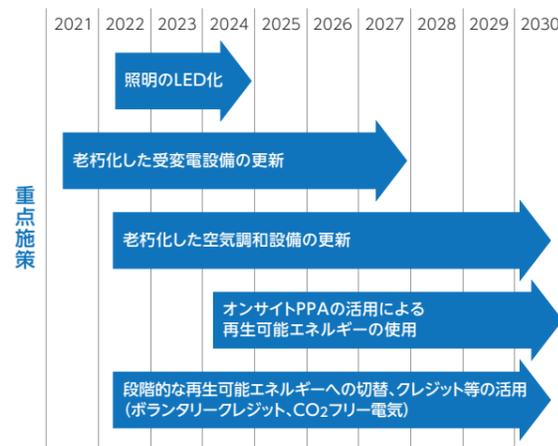
#### 2030年CO<sub>2</sub>排出量 2023年比30%減

● CO<sub>2</sub>排出量(スコープ1&2)の推移と2030年目標値(tCO<sub>2</sub>e)



CO<sub>2</sub>排出量スコープ3については国内外での算定などを進めており、2026年までにグローバルでの排出量削減目標を開示予定です。目標については、SBTの認証取得も視野に入れております。

● 目標達成に向けた重点施策



本社工場、島根工場に太陽光パネルを設置、再生可能エネルギー発電設備を整備しています(2024年中に設置完了予定)。年間154万kWhの発電量を見込んでおり、年間754tCO<sub>2</sub>eのCO<sub>2</sub>削減効果が期待できます。

● 気候変動リスク・機会が財務に及ぼす影響と対応策

区分	項目	該当シナリオ		発生時期	財務への影響		対応策	実績
		1.5℃	4℃		金額	確率		
移行リスク	政策・法規制	○		短期	小	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発への計画的な投資と製品設計</li> <li>省エネ型の設備の導入</li> <li>国や自治体の補助金などの支援制度の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本社工場、島根工場における太陽光発電設備の導入(稼働は2024年以降)</li> <li>本社LED照明化完了</li> <li>スコープ3排出量の算定に向けた準備</li> <li>日本国内において冷蔵庫・冷凍庫68機種(14機種)の自然冷媒化完了。2024年末までに全ての冷蔵庫・冷凍庫および製氷機(14機種)を自然冷媒化。</li> </ul>
	炭素税導入によるコスト増加	○	○	短・中・長期	中	高	<ul style="list-style-type: none"> <li>スコープ2排出量を削減するための再生可能エネルギーの調達拡大</li> <li>当社事業に関わるサプライチェーンの排出量(スコープ3排出量)の算定を今後おこない、対応を検討</li> </ul>	
	市場	原材料調達コストの上昇	○		短・中期	大	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>VA(Value Analysis)コストダウン活動(部品点数の削減、設計の変更、部材・部品の見直し)、調達先分散化、戦略的価格改定</li> </ul>
物理リスク	再生可能エネルギー・代替燃料調達コストの上昇	○		短期	小	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場の電力使用量削減活動、太陽光パネルなど自家発電設備への計画的投資、外部電力の再生可能エネルギーの使用比率向上</li> </ul>	
	サプライチェーン寸断による原材料調達コストの上昇		○	短・中期	中	低	<ul style="list-style-type: none"> <li>調達先の分散化および新規調達先の開拓</li> <li>製造拠点に近い仕入先からの調達、調達リスクに備えた部品在庫量の適正化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コストダウンおよび価格改定の実施</li> <li>豊明本社工場、島根工場における太陽光発電設備の導入(2024年以降稼働開始)</li> </ul>
	自然災害への対策強化に向けたコストの増加		○	中期	小	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル拠点(製造、販売)におけるBCP*の明確化</li> <li>有事の際の安定調達に向けた仕入先との連携強化</li> </ul>	
慢性	猛暑、感染症拡大による外食市場の縮小		○	中期	中	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客チャネル拡大(飲食外市場、特に流通販売業、加工販売業、基幹産業、病院・老健に注力)</li> </ul>	
機会	製品とサービス	○		短・中・長期	大	高	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然冷媒を使用した製品のラインナップ拡充</li> <li>製品の電力使用量削減、水使用量の削減(製氷機、食器洗浄機など)</li> <li>可燃性ガス取扱資格者の増員、修理用器具設備手配、サービス開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国内において冷蔵庫・冷凍庫68機種(14機種)の自然冷媒化完了。2024年末までに全ての冷蔵庫・冷凍庫および製氷機(14機種)を自然冷媒化。</li> <li>省エネ製品リリース</li> <li>稼働・温度データをクラウドサーバで管理するサービス(SaaS)「ホシザキコネクT-Wi-Fi」(p.06参照)の導入</li> </ul>
	市場	○		中・長期	中	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>気温上昇による影響度が高いエリアへのコールドチェーン製品拡充および進出</li> <li>未進出先などへのコールドチェーン製品販売の拡大、および販売エリア拡大にともなうサービス網の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外展開(M&amp;A)の推進</li> <li>海外売上高比率45.9%(前期比+3.9pt)(2023年度)</li> </ul>
	異常気象など環境変化にともなう自社製品およびサービスの需要増	○		中・長期	中	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>衛生製品ラインナップ、サービスの充実</li> <li>自動化、ロボティクス、リモート操作製品、サービスの開発、省力化製品拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>稼働・温度データをクラウドサーバで管理するサービス(SaaS)「ホシザキコネクT-Wi-Fi」の導入</li> <li>コネクテッドロボティクスとの協業</li> </ul>

\*事業継続計画(BCP): Business Continuity Planの略で緊急事態発生時の事業継続策